

地域子育て支援拠点研修事業<福岡開催>

《開催概要》

- 開催日：平成 28 年 11 月 12 日（土）10:00～16:30
- 会 場：西南学院大学（東キャンパス）
西南コミュニティーセンターホール
- 主 催：NPO 法人子育てひろば全国協議会
- 後 援：（社福）全国社会福祉協議会・福岡県・
福岡市・西南学院大学
- 協 力：地域ぐるみの子育てをすすめるひだまりの会
- 参加人数：144 名



《プログラム》

■開会挨拶

奥山千鶴子 NPO 法人子育てひろば全国協議会 理事長



■プログラム 1 事例報告

「地域子育て支援拠点事業の基本 4 事業を考える」

- ◆子どもが育つ環境づくりとは？
- ◆大人にとっても居心地の良い拠点とは？
- ◆拠点におけるプログラムのあり方とは？



【コーディネーター】

中橋恵美子さん NPO 法人わははネット 理事長（香川県高松市）

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事

アウェイ育児の母親たち含め、さまざまな家庭、環境、育ち等の背景を考えて親子がつどう拠点に求められること、つまり地域子育て支援事業の基本 4 事業「①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進②子育て等に関する相談・援助の実施③地域の子育て関連情報の提供④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施」について、配布したガイドラインも活用しながら事例報告と共に確認し、あらためて事業実施において大切にすべきことや理念について考える。

また、報告者の事例を聞くことで、工夫点などを参加者が自らの拠点に持ち帰り、明日から取り組める活動のヒントを得て欲しいと考えている。



【事例報告】

◆川上利香さん NPO法人宇美こども子育てネット・う～みん 代表理事（福岡県宇美町）

NPO法人宇美こども子育てネット・う～みんの概要と宇美町の状況について紹介しながら、宇美町唯一の子育て支援センター「ゆうゆう」について説明した。「ゆうゆう」は、親子で居心地のよい場所を提供するため、段ボールハウスの作成やおもちゃをあえて少し出しておく等して遊びのきっかけ作りを行っている。また、いつでも気持ちよく迎え入れること、スタッフがいる意味を常に考えている。相談は、できるだけ顔を見て傾聴し、来館者を巻き込みながら子育て経験の中からのヒントを大切にしている。さらに、子育て相談の日を設け、専門家へつなぐ工夫をし、一人で答えを出すのではなくチームで導いていくことを意識している。情報提供は、拠点だけでなく地域の情報も掲載した「子育てカレンダー」を活用している。（ホームページでも閲覧可）また、掲示板は、館内で気になったことなどを伝える手段として利用し、禁止事項としてではなく、やわらかな表現で工夫している。今後の課題は旬の情報提供のため、ホームページの更新が必要と考えている。講習は、親だけでなくスタッフも学べる講座として、「子どもとメディアの上手なつきあい方」などを開催。特に力を入れているのが「ワンポイント子育て塾」で、子育てにおけるちょっとした工夫など親が自分の子育てに自信が持てる内容になっているため、すべての親に受講してもらいたいと願っている。ここはきちんと伝えたいと思うところは専門家を利用して託児付きでしっかり聞ける環境を作っている。



今後は妊婦さん、パパやおじいちゃんおばあちゃんにもアプローチした講習も積極的に開催したい。これからも、たくさんのつながりが生まれることを願って、親子の居心地のよい場所にしていきたい。また、現在拠点が一か所なので、もっと増やせていけたらと思っている。

◆坂本牧子さん NPO法人e子育てセンター 理事（ひろばアドバイザー）（広島県広島市）

NPO法人e子育てセンターの概要と広島市安佐南区の状況について紹介しながら、「広島市公募型常設オープンスペースひろば KUSU-KUSU 祇園」について説明した。



はじめての出会いを大切に交流の場の提供をしている。アウェイをホームに変えるための工夫として、名札の活用で会話のきっかけ作りや、土曜開館でより幅広い家庭が利用できるようにしている。また、スタッフが丁寧に利用方法を説明し、温かく迎え入れることを心掛けている。相談は、たわいのないおしゃべりを大切にし、専門家であるようでないスタッフだからこそ話せる雰囲気を意識している。

特に健診前後は親の不安が大きいので保健師と連携をして対応している。また、利用者さんとさりげなく一対一でお話しできる工夫として、玄関先までの送迎やキッチンカウンターでの作業等、相談しやすい環境作りをしている。情報提供は、校区、行政、イベント講座、e子育てセンター、新聞などの旬のもの、図書の6つに分けてわかりやすく掲示している。子ども対象のものだけでなく、様々な情報も掲示することを意識している。講習は、「ひろばにはじめて行ってみるきっかけになるようなもの」、「ひろばでの同年代の出会いを大切にするもの」、「専門職による子育て講座、地域の人がひろばにきて行っているもの」がある。

『地域で顔の見える子育て支援を』をモットーに子どもが健やかに育つ社会になるよう、地域とのつながり、専門職とのつながりを大事にし、連携していくようさらに努めていきたい。



■プログラム2 基調報告

「地域子育て支援拠点事業・利用者支援事業の概要と最新情報の提供」

【講師】野村知司さん 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課 少子化総合対策室長

地域子育て支援拠点事業と利用者支援事業の概要説明および、子ども・子育て支援新制度などの最新情報についてと、今後の課題について説明があった。

現在の子育ては、核家族や地域のつながりの希薄化を背景に、不安感や負担感を抱き、孤立している課題がある。地域子育て支援拠点事業は4つの基本事業を軸に、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安、悩みを相談できる場を提供することによって、自分の子育てに肯定的な感情を持てるようになる等、親子の支えとなっている。また、拠点としてだけでなく、地域との継続的なつながりのためのアウトリーチも重要な役割を担っている。



こういった4つの基本事業を実施していく中で地域の子育てが直面している課題が見えてきて、地域の親子への支援や地域とのつながりが深化、発展していくような好循環へと展開していくことを期待している。さらに、今回のような拠点同士の交流によって、ノウハウの交換、共有、横のつながりは経験則の向上になるため今後も必要と考える。

子ども・子育て支援新制度における、利用者支援事業は地域との連携、ネットワークを利用し、個別のニーズを把握してつなげていく「基本型」の重要性を感じている。支援者は利用者主体の支援を行うために、たくさんのネットワークをもち、適切な関係機関等へとつなぐ重要な役割を担っている。また、子育て世代包括支援センターの仕組みは、ハコモノではなくシステム、即ち、妊娠期から子育て期まで継続的にサポートし、切れ目なく支援する体制作りが狙いである。最後に、こういった事業は、子育てしやすい地域、社会をつくるための道具の一つであり、使いこなして行政と支援拠点が連携をして良い方向に改善していくことが大切であると考えている。

■プログラム3 講義

「地域子育て支援拠点における利用者支援とは」

地域子育て支援拠点と利用者支援事業が一体的に運営されていくためにどうすればよいか学ぶ。

【講師】橋本真紀さん 関西学院大学 教授

地域子ども・子育て支援法において、子ども・子育て支援事業は、「必要な情報の提供及び助言を行うとともに、関係機関との連絡調整その他の内閣府令で定める便宜の提供を総合的に行う事業」とされている。利用者支援事業は、一人一人の子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に寄与する目標を掲げ、子育て家庭にとって身近な場所で、「利用者支援」と「地域連携」を行うべきわめて重要な事業である。



利用者支援は、家庭が地域の中に子どもを育てるサポート体制を創っていくそのプロセスを支える役割であり、相談対応、情報収集・提供、助言・利用支援を通して行う。その際、制度や事業側に本人（子育て家庭）を合わせるのではなく、本人のニーズに制度や事業が合わせた支援を行うこと。個別ニーズに合わせた支援を行うことが、利用者支援事業の基本姿勢である。

地域連携では、関係機関との連絡・調整、連携、協働の体制づくりをすること、地域の子育て資源の育成や地域課題の発見・共有、社会資源の開発が求められる。

利用者支援専門員「基本型」の職員は、子育て家庭の生活の中に存在しながら、時に愚痴のように聞こえる個々のニーズを把握し、必要とされる資源との関係をとりもつ。またその「愚痴」の中にある地域に共通するニーズに気づき、ニーズを体系化し、他の資源に伝えたり、共に新たな資源をつくる。常に、いろいろな場所で必要なニーズをつぶやくこと、強く要求はせず、緩やかに、柔軟に対応することが大切である。

■プログラム4 パネルディスカッション

「寄り添う、広げる、深める」～親子にとって身近な場での支援～

【コーディネーター】

奥山千鶴子さん NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長

【パネリスト】

橋本真紀さん 関西学院大学 教授

赤迫康代さん NPO 法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事（岡山県備前市）

小川由美さん NPO 法人アンジュ・ママン 施設長（大分県豊後高田市）

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事

◆奥山千鶴子さん NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長

最初にコーディネーターから、利用者支援事業設立の背景や事業創設の目的など利用者支援事業の基本事項を解説。横浜市の利用者支援事業の経緯、及び特定型が「保育コンシェルジュ」、基本型が「横浜子育てパートナー」という名称であることを紹介した。保育コンシェルジュは、保育所等を利用できなかつた方へのアフターフォローも行っており、基本型は各区の地域子育て支援拠点に1名ずつ配置され、親子にとって身近な場所で相談ができるメリットなども共有した。

◆赤迫康代さん NPO 法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事（岡山県備前市）

備前市は、地域子育て支援拠点が5か所、その内4か所が利用者支援事業を実施している。平成12年4月に備前市直営事業として「わくわくるーむ」が発足、平成19年5月よりNPO法人が運営委託を受け現在に至る。平成27年4月から子育て支援事業「まるある」をスタートし、子育てコーディネーターが配置された。まずは活動を理解し認知してもらうための広報活動と関係機関との協力体制作りを行った。また、行政機関だけではなく、地域の多様なボランティアとのつながりを積極的に実施している。個別相談への対応や双子や発達障がいのある子どもなど個別なニーズを持つ親子へのコーディネート、アウトリーチによる支援なども行う。コーディネーターは、当事者の気持ちやペースを大切にしながら、親子ひとりひとりのニーズを丁寧に把握していった上で、今、考えられるベストなつなぎ先を見立て信頼関係を育む努力をし、社会資源の発掘への意識を持続けることを大



切にしている。課題としては、拠点スタッフとコーディネーターの連携方法を工夫したり、つなぐ力の向上、コーディネーターの力量や人数的な厚みも必要である。

今後の展望としては、「相談室」など、ハード面の環境整備に向けて検討中。親子の小さなつぶやきを大切に聴いて、心を込めてコーディネートしていく積み重ねによって「子育てにやさしいまち」にしていきたい。

◆小川由美さん NPO 法人アンジュ・ママン 施設長（大分県豊後高田市）
NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事

大分県の北東部、国東半島の西側に位置する豊後高田市は、平成 16 年に豊後高田市の直営でつどいの広場「花っこルーム」開所。そこで出逢った母親達が平成 19 年に任意団体アンジュ・ママンを設立。その後、平成 22 年に NPO 法人アンジュ・ママンと改め、地域子育て支援拠点事業や、地域子育てサポート事業、利用者支援事業など、主に 9 つの事業を地域と連携しながら活動している。



地域子育て支援拠点は、親子に寄り添い、子育てに戸惑い孤立しがちなこの時期だからこそ、共感することで不安感の軽減をはかることに努めている。拠点には、コーディネーターが常駐している。コーディネーターは、あくまで受け身の姿勢で、地域資源の情報収集と連携、それぞれの事業や機関との間での役割を的確に判断し対応することを心がけている。

平成 17 年の市町村合併にともない、拠点が遠く来ることができない方のために週に一回、中心部から離れている地域子育て中の方の支援、アウトリーチも積極的に行っている。日頃から市内のお祭りやフリマ、イベントなどに参加し、支援者が地域に出向き、顔の見える関係作りを大切にし、地域子育て支援拠点を中心により子育てしやすい街づくりに努めている。

子育て家庭が地域の中で安心して子育てができるようにということを目的に、地域全体で支援の底上げを行っている。

◆ディスカッション

奥山さんから、「おふたりとも、利用者支援事業の基本型のみ行っているのか。常駐するコーディネーターが何人いるのか？そのコーディネーターは、拠点のことも知っている人なのか？」の質問があった。



【赤迫さん】

基本型のみ。コーディネーターは 3 人いて、2 人が常駐。拠点のスタッフでもあるため、連携も取りやすい。

【小川さん】

基本型のみ。コーディネーターは 4 人いて、午前と午後で入れ替わることもあるが、必ず 1 人は常駐。拠点のスタッフでもあるため、利用者の事情を分かっている。

◆赤迫さん、小川さんの具体的な利用者支援の事例報告

【橋本さん】

どちらの事例も利用者の気持ちに寄り添い支援ができている。子育て支援拠点では踏み込んだ対応がなかなかできない。それを可能にするのが、家庭と地域をつなぎ支援をしていく「利用者支援事業」。大切なことは、親子の困り感を丁寧に聴きながら、どの地域資源がよいか考えること。地域資源については、形式にとらわれず、何でも資源ととらえ積極的に関わっていき、またどのように機能するかわからないが、いろいろなところとつながっておくことである。利用者の困り感があった時、どの資源とつなぐかを思いつけるかが重要である。



■終了挨拶

小川由美さん NPO 法人アンジュ・ママン 施設長（大分県豊後高田市）
NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事

